

委員会審議		令和5年4月10日
申請者	病理診断部長	南 優子
1	Grading for Squamous Cell Carcinoma 扁平上皮癌のグレーディング	
研究の概要	<p>概要</p> <p>(1) 目的 世界肺癌学会病理委員会は、肺扁平上皮癌の悪性度評価のための予後に関連する一連の組織学的基準を評価し、grading systemを作成する。</p> <p>(2) 対象及び方法 後方視研究、観察研究術前療法を行わず手術を行ったステージを問わない肺扁平上皮癌患者(2022年以前) 電子カルテ(紙カルテ)および病理システムを参照し、臨床病理学的特徴(性別、年齢、腫瘍径、喫煙歴、病理学的TN玳4、リンパ管侵襲、血管浸潤、胸膜浸潤、組織学的特徴、術式、術後療法、最終確認日、手術日)やアウトカム(RFS、(S)を記載したデータベースを作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニングコホート(MGH n = >200)を用いてgrading systemを確立する。 2. テストセット(茨城東病院[n>20()]とInstitut universitaire de pathologie du CHUV [n = 354]を合わせたもの)を使って同じ手順を行い評価し、同じ結果/評価システムが達成されることを確認する。 3. 採点方法は、他のWGメンバー(十他の委員)が、対応するコホートで検証する。それらの組織スライドを世界肺癌学会の病理委員会の病理医で観察者間および同一観察者間の検証を行うため、実際のガラススライドの供覧およびバーチャルスライドに取り込む。 4. グレーディングシステムに関する観察者間一致試験(試験症例のサブセット) 5. 成果物の執筆・公開 <p>(3) 実施場所及び実施期間 茨城東病院およびMGH 倫理委員会承認後～2026年3月31日</p>	
判定	承認	本審査は全員一致で承認された